



学校教育目標	初雁中の目指す姿
学びあい	◇目指す学校像  なりたい自分にする学校
豊かな心で	◇目指す生徒像  なりたい自分になる生徒
未来をひらく生徒	◇目指す教職員像  「なりたい」を教え導く教職員

## ある沖縄の記憶から

校長 矢部智史

2月に入りました。毎年楽しみにしている臘梅の花も咲きそろい、4日には立春を迎えます。また、15日から2年生は京都・奈良方面へ2泊3日の修学旅行に出かけます。これまで積み重ねてきた主体的な学びの姿勢を貫き、有意義な校外学習にしたいと思います。

さて、「2月の修学旅行」というフレーズから思い出したことが1つあります。十年ほど前のことになりますが、2月に勤続20年のリフレッシュ休暇という制度を利用し、47都道府県の中でただ1つ未踏の地であった沖縄県に行きました。目的は琉球王国の史跡や太平洋戦争時の遺構を巡ること、また沖縄の風土や人々の暮らしの様子をこの目で確かめることでした。1人旅は初めての経験だったので、身軽さをよいことに自分の足で毎日20km以上も歩いてあちこち見聞しました。その1つの場所に「ひめゆりの塔」とその資料館がありました。1つ1つの展示を食い入るように眺め、未来あるひめゆり学徒隊の女生徒の死に心を痛め、多くの人の犠牲の上に成り立っている現在の平和の重さを実感せずにはいられませんでした。

2時間程経った頃、高校生と思われる修学旅行の団体がバスで乗り付けました。大きな笑い声と賑やかさはその場の雰囲気に対応しいとは言い難く、一教師としては学校でどんな事前指導を受けて見学に来たのだろうと疑問に思う程でした。感傷に水を差された感じでちょっと不快に思った私は、その場を避けようと別のコーナーに足を運びかけたのですが、高校生たちが指を差して大声で笑っていたその先にあったのは、ひめゆり学徒隊の一員として命を落としたある女学生の1枚の写真でした。「この人、変な顔!」「こっちの方が変な顔だよ!」一瞬、我が耳を疑ったと同時に、激しい怒りがこみ上げてきました。次の見学場所の予定があったのか、生徒たちはさっとその場を離れていきましたが、私はもう少しのところで「君たち、出て行きなさい!」と声を荒げそうでした。教育者ならきちんと教えてあげるべきだったのでしょうが、感情が先走ってしまいました。とても残念な沖縄での記憶です。

今更言うことでもありませんが、教育は人格の形成に必要不可欠なものであり、大きく影響を及ぼします。もし、前述の高校生が修学旅行の事前学習で、なぜ沖縄島民が太平洋戦争で多くの犠牲を払わなければならなかったのか、また現在もなお多くの米軍基地が残されているのはなぜなのか、平和とは何なのか、命とは何なのか、幸せとは何なのか・・・少しでも向き合う瞬間があったとしたら、彼らにとっての沖縄修学旅行はその後の生き方に大きく影響するくらい別次元のものになっていたと思います。教育の使命を自覚し、教育活動に邁進していきたいと思います。